

Title	災害対応チャプレン（分科会6 次期災害に備える）
Author(s)	岩上, 敬人
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, No.58, 2014.11 : 116-118
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5309
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archive

災害対応チャプレン

岩上敬人

序

教会の次期災害の備えについて大切な準備についてお話したいと思う。それは災害対応チャプレンについてである。チャプレンは日本ではあまり馴染みのない役職であるが、欧米では軍隊や医療施設などでの専門的な職業であり、その働きの中心は心のケア、スピリチュアルケアである。災害対応チャプレンとは、被災者や災害対応において様々な働きに従事する人たちの心のケア、スピリチュアルケアを行う人である。ここでは被災者と支援者の心のケア、スピリチュアルケアに焦点を当てながら、災害対応チャプレンの重要性を説明する。

1. 被災者の心理的变化と心のケアの必要性

被災者は、災害の影響を受けた後、様々な心理的变化を経験する。第一に「英雄期」と呼ばれる時期がある。これ

は、世間の注目を受けて、また被災直後に生き抜くために精神的に高揚する時期である。第二に「ハネムーン期」が続く。これは災害に対応していく中で地域に団結と一致が見られ、一つとなつて災害対応に取り組む時期である。そして第三に「幻滅期」が訪れる。この期間は、世間の注目もなくなり、復興も思う以上に時間がかかることがわかる。長引く被災状況に被災者も支援者も疲れる時期である。最後に「回復期」。被災者は新しい日常を取戻し、不安定な生活から安定した生活に戻っていく。四つの時期やその長さは災害の規模や地域、個人の性格によってもまちまちである。ただ、このような被災者の心理的变化を見ながら、支援者は心のケア、スピリチュアルケアを行っていく必要性がある。

2. 支援者側の心のケア、スピリチュアルケアの必要性

被災者だけでなく、支援者も心のケア、スピリチュアルケアを受ける必要がある。被災地と被災者に自分自身をさらけ出し、他者の心的外傷を身をもって経験することは、支援者側にも様々な影響を与える。例えば、同情疲労、二次的心的外傷ストレス、燃え尽き、もつとやらねばという罪悪感、いつ支援を終えてよいのかわからない、信仰の危機などである。

支援者がケアを受けることなく働き続けると、大きな傷を受けることになる。それで、支援者にとつても心のケア、スピリチュアルケアは不可欠なのである。具体的には、デブリーフィング (debriefing) と呼ばれる作業が大切である。心理的に働きを終結させ、「新しい自分」に自己調整していく必要がある。

3. 災害対応チャプレンの役割

災害対応チャプレンは、このような被災者と支援者の心のケア、スピリチュアルケアを行う。具体的には、被災者の心のケアを行うボランティアを養成し、心のケアチームを作つて現場に派遣する。心のケアチームのリーダーや各支援者の心のケア、スピリチュアルケアも行う。次期災害に備えて、このような災害対応チャプレンの育成が急務となっている。